

震度階級の解説表が 新しくなりました

～「気象庁震度階級関連解説表」の改定(H21.3.31)～

震度階級の解説表って？

震度は、地震による揺れの強さを総合的に表す指標で、防災対応の基準として利用されています。「気象庁震度階級関連解説表」は、ある震度が観測されたときに、その周辺で、どのような現象や被害が発生するかの目安を示す資料です。

震度はどうやって決める？

気象庁が発表する震度は、地震の揺れの強さを震度計で観測したものです。発生した現象や被害の様子から決めるものではありません。発表する震度は「震度計のある場所」の震度であり、同じ市区町村内でも場所が違えば震度が異なる場合があります。

※今回の改定は震度そのものを変更するものではありません。

わかりやすくなった新しい解説表を、
イラストつきの資料（裏面）にまとめました。
見やすい所に貼るなどして、日頃からの防災
対策にお役立てください。



気象庁マスコットキャラクター
はれるん

詳しい解説表は、気象庁ホームページ等で公開しています。

参照ホームページ：<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/shindo/kaisetsu.html>



国土交通省 気象庁

震度と揺れ等の状況(概要)

0		[震度0] 人は揺れを感じない。
1		[震度1] 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
2		[震度2] 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。
3		[震度3] 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。
4		[震度4] ●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が、倒れことがある。
5弱		[震度5弱] ●大半の人々が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れがある。
5強		[震度5強] ●物につかまらないと歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ●固定していない家具が倒れがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。
6弱		[震度6弱] ●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
6強		[震度6強] ●はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。
7		[震度7] ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

地震が起きたら

あわてず、まず身の安全を!!

緊急地震速報を見聞きしたら

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難
- あわてて外に飛び出さない(落下物や車が危険)
- 揺れがおさまってから、あわてず火の始末
- あわてた行動、けがのもと

- 運転中は、ハザードランプを点灯し、緩やかに減速
- 近づくな、門や塀、自動販売機やビルのそば
- 海岸でぐらついたら高台へ

家屋の耐震化や家具の固定など、日頃から地震に備えましょう!!



国土交通省 気象庁

〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4 電話:(03)3212-8341(代表)
ホームページアドレス <http://www.jma.go.jp/>